



ご当地のマドンナが案内する最旬の外遊びガイド

日本全県アウトドア巡り

その32

滋賀県



琵琶湖の上で 楽しく七転八倒! (滋賀県・大津市)

琵琶湖での、さまざまなアクティビティを体験できるオーバルという施設。そこではウォーターチューバーというアクティビティが楽しめるという。ぶっちゃけ聞いたことがないけど、現場に着くと琵琶湖の上に変な物体が！

チューブの中に乗り込んでいざゴロゴロゴロ



デッキからウォーターチューブに乗り込む。転覆することはまずないけど、念のためライフジャケットを着用。本体はロープで確保してあるので、どっかに漂流するなんてこともない。



今日の案内人
アウトドアスポーツクラブ オーバル
三野明穂さん

琵琶湖のアウトドア施設「オーバル」でスタッフとして働く、現役女子大生。大学での専攻は野外スポーツコース。福井まで歩いて行って、カヤックで戻ってくるというハードな実習もあるらしい。



今日のマドンナ
びわ湖大津観光大使
西村麻香さん

生まれも育ちも生粋の滋賀っ子。観光大使として、様々なイベントなどでPR活動中。現在2人いるという観光大使では、どちらかという喋り担当。現役女子大生で、高校時代はバレーボール部。体力には自信あり！



写真右が見事にぶっ飛んでいるの図。ただ、これが醍醐味だからあえてふたりの息を合わせないというやり方がベター。夏場の内部は正直いって暑いけど、秋は水の冷たさと太陽のボカボカで、昼寝したくなる心地よさなんだとか。



ふたりの息が合っていないと
あっという間にぶっ飛びます

快晴の空を映し込んで、青くキラキラと輝く琵琶湖。その湖上に浮かぶ謎の物体。その正体は「ウォーターチューバー」という新感覚のアクティビティだ。空気で膨らませた円筒形の本体内部に乗り込み、水上をゴロゴロと転がる。言葉にするとやや地味だけど、実際にやってみると、とてもエキサイティング。基本、2人で乗り込むんだけど、ふたりの呼吸が合わないとい、あつという間に転げ回る。さつきから、マドンナ役の麻香さんの「きゃー」という悲鳴が聞こえっぱなしだ。要するに水上ハムスター状態。走れども走れどもどこにも進んでいかない感じが、ちよつと笑える。「でも、水の上での浮遊感とはとても不思議な感覚です。水中観察も楽しいですね。結構疲れますけど」と麻香さんが笑う。「ずつとバランスを取っているから、体幹をトレーニングするのも良いんですよ」とスタッフの三野さん。「これってLEDで光らせて、夜にやっても雰囲気良さそう！インスタ映えもしそうですしね！」麻香さんはそういって、しきりと写真を撮っている。確かに。今回みたいな七転八倒系も楽しいけど、カップルでまったりっていうのも、なかなかロマンチックなシチュエーションなんじゃない？

琵琶湖の周辺には 個性的な酒蔵も多数

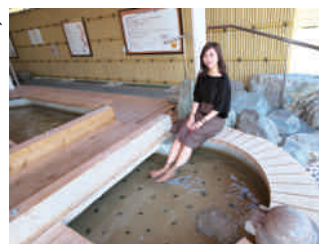
近江米が有名な米所だから、酒蔵もたくさんある。今回は「浪乃首酒造」さんへ。左は搾りたての新酒を無濾過で瓶詰め。右は女性に人気のかぼすのお酒。



琵琶湖ではしゃいだ後は 足湯とカレーでリフレッシュ

「おごと温泉観光公園」では、無料の足湯サービスがあって住民にも大人気。レストランとお土産屋さんも併設し、写真は近江牛を贅沢に使った「おおつ近江米カレー(1280円)」。

大津市おごと温泉観光公園
④滋賀県大津市雄琴1-2-17
☎077(578)3750



水上での浮遊感をさらに楽しめて水中観察もしやすい。びわ湖大津プリンスホテルでは、ライトアップしたナイトプールでのウォーターボールも実施中。

よりまったり系の ウォーターボールも



転げ回った後には
オリジナルのマイボトルで
水分チャージ!

ステッカーをペタペタ貼って
他人のボトルと差を付けるのだ



別売りのJNRカスタマイズプレートを使って、自分の好みのデザインにカスタムできるボトル。真空断熱ケータイマグ／(右)JNR-350 0.35ℓ 5500円、(左)JNR-500 0.5ℓ 6000円

滋賀県の面積の1/6という広大な琵琶湖。貯水量はなんと約27.5km³。その水は関西圏の水源として各府県に送られる。「琵琶湖の水を止めるで! (笑)」という滋賀ジョークの由来はそこから。そんな琵琶湖周辺には、のんびりできる公園なども多数ある。湖畔で佇んでも、海と違って潮でベタベタしてこないから、一日ゆったり過ごすのに向いているかも。



蓋部分のプレートにシールを貼ってカスタム。プレート式なので、他デザインへの差し替えも簡単。本体カスタム用のシールもあり。